

令和5年7月

四国電気安全委員会
四国電力送配電株式会社

児童および生徒の感電事故防止のお願いについて

拝啓 盛夏の候、貴校ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当委員会の業務運営に格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、当委員会では、毎年感電事故防止について「チラシの配布によるPR」等を実施し、安全思想の普及に努めてまいりましたが、全国的にみれば不幸にも児童および生徒の感電事故は後を絶たないのが現状であり、感電事故防止について繰り返しの周知徹底が必要と考えます。

とくに、夏季は皮膚の発汗や身体の露出等により感電の危険性が高まり、感電死傷事故が発生しやすいことから、経済産業省の主唱により8月を「電気使用安全月間」と定め、関係各団体が相互に連携協力し、集中的に安全運動を展開いたします。

つきましては、感電事故防止に関する資料をお届けいたしますので、児童および生徒の感電事故防止について、格別のご協力ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

- 「資料」（指導用）「感電事故を起こさないようにするにはどうすればよいか」
（掲示用）「あなたが防ぐ電気事故」
「夏休みを楽しむために守ってほしいこと」

感電事故を起こさないようにするにはどうすればよいか

児童および生徒の感電事故を防止するため、次の点についてご指導下さい。

1. 電柱には絶対昇らないようにしましょう。

雀の巣や、引っかかった凧などをとりに電柱に昇り、感電した事故が発生しております。電柱に昇ると感電のおそれがあるばかりでなく、墜落などにより大けがをすることがありますので、電柱には絶対昇らないようにしましょう。

2. 垂れ下がった電線は危険です。電線には絶対近寄らないで急いで四国電力送配電(株)に連絡しましょう。

これから多くなる台風や雷、また自動車の衝突などが原因となって電柱が折れたり、電線が切れたりすることがあります。断線して地上に垂れ下がった電線を見つけたときは、絶対近寄らないようにして急いで近くの四国電力送配電(株)の事業所へ連絡して下さい。

3. 遊ぶときは電線に近寄らないよう注意しましょう。

屋根に引っかかったボールなどを取るために屋根にあがったり、また木登りなどをしていて付近を通っている電線に触れて感電した例もありますので、電線には絶対近寄らないよう注意して遊びましょう。電線の近くで凧あげや模型飛行機を飛ばしたり、釣竿や捕虫網などを電線に近づけたりしないような注意も必要です。

4. 変電所や発電所の構内へ入るのはやめましょう。

変電所や発電所の構内へ入ると、感電のおそれがあり非常に危険です。キャッチボールでボールが入った場合などには、必ず四国電力送配電(株)の事業所へ連絡して取ってもらうようにして下さい。

5. 家庭の電気設備の不良箇所は早く直しましょう。

家庭の電気機器、コード、配線などが劣化していると感電のおそれがあるばかりでなく、火災の原因となる場合があります。このような電気設備の不良個所に気付いたらすぐ近くの電気工事店に頼んで修理してもらいましょう。また、コンセントから電気機器のプラグを抜くときは、コードを引っ張らず必ずプラグを持って抜いて下さい。

6. 濡れた手で電気機器やスイッチに触らないように注意しましょう。

電気洗濯機、クッキングヒーター、炊飯器、冷蔵庫、などは濡れた手で扱うことが多く、万一、漏電していると感電の恐れがあります。また、プール等でのスイッチ、コンセントの操作や電球、蛍光灯などの取替の際は、手が濡れていると大変危険ですから十分注意して下さい。

感 電 事 故 例

事例. 1	7才の少年が、変電所の柵を乗り越えて入り、高い電圧の電気機器に触れ感電した。
事例. 2	電線に巻付いた鯉のぼりを取ろうとして電柱に昇った被災者(男30才)が電線に触れ感電した。
事例. 3	10才の少年が、凧(ゲイラ)遊び中に凧が電線にかかり、これを取るため電柱に昇り電線に触れ感電した。
事例. 4	13才の少年が、すずめの巣を取るため、電柱に昇り高圧の電線に触れ感電した。
事例. 5	家族3人で「鯉のぼり」のポールを建てこみ中、ポールが上方の送電線に触れ、3人が感電した。
事例. 6	7才と8才の少年が、蟬取りのため浄化設備機械室屋上によじ登り、絶縁劣化した引込口配線に触れ感電火傷した。

令和5年度 四国地区キャッチフレーズ

電気コードは丁寧に 踏まず 束ねず 引っ張らず

あなたが防ぐ

電気事故

電気安全についてのお問い合わせはもよりの
四国電力送配電(株)支社・事業所・サービス
センターへどうぞ



★屋外ではこんなことに注意

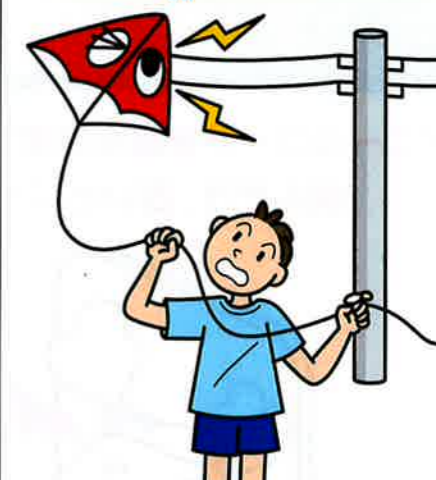
●街路灯や引込線を取付した
小柱が腐食していないか点検を



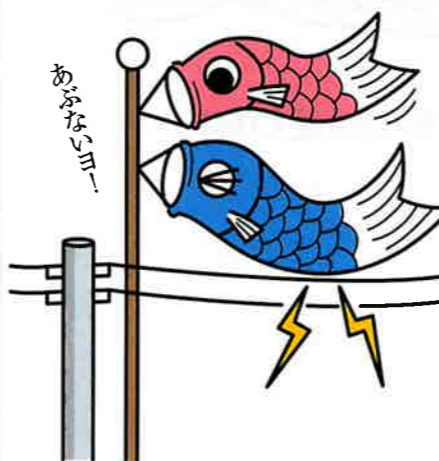
●釣竿は電線に近づけない



●電線の近くで凧上げや
模型飛行機を飛ばさない



●このぼりは電線から
十分はなれた場所へ



●変電所の中へは
絶対にはいらない



●切れてたれ下がった電線には
絶対にさわらず
四国電力送配電へ連絡する



★電気器具をお使いのときは

●うっかりぬれ手で
さわらないように



●電気設備の不良箇所は
すぐ修理を





●洗たく機などには
アース線を



●タコ足配線は
しないように



●電気器具は  または
 マークの
ついた優良器具を



●漏電しゃ断器を取り付けて
安全な電気の使用を



★「グラッ」と地震が発生したら

●使用中の電熱器具の
スイッチを切り、
コンセントからプラグを抜く



●避難するときは、
しゃ断器を「切」にする
地震を感知して、自動的に電気を
しゃ断する装置も市販されています。

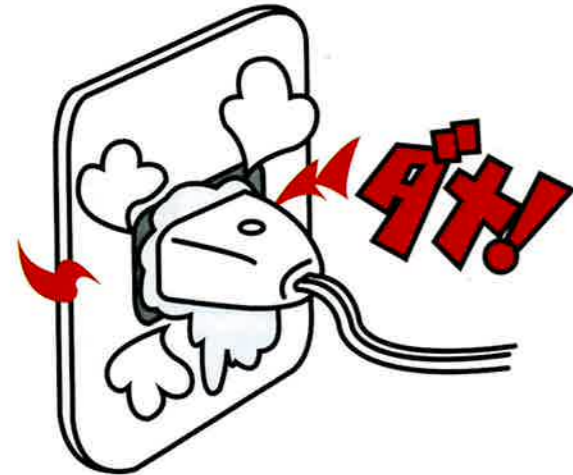


●避難先から戻って、電気器具を
使用するときには、
ガス漏れのないことや
器具の安全を確認する



★ビニールコードの取り扱いには十分注意しましょう

ビニールコードを傷んだまま使ったり、使い方が悪いと感電や火災の原因になります。傷んだり、古いビニールコードは早めに取り替えし、正しく使いましょう。



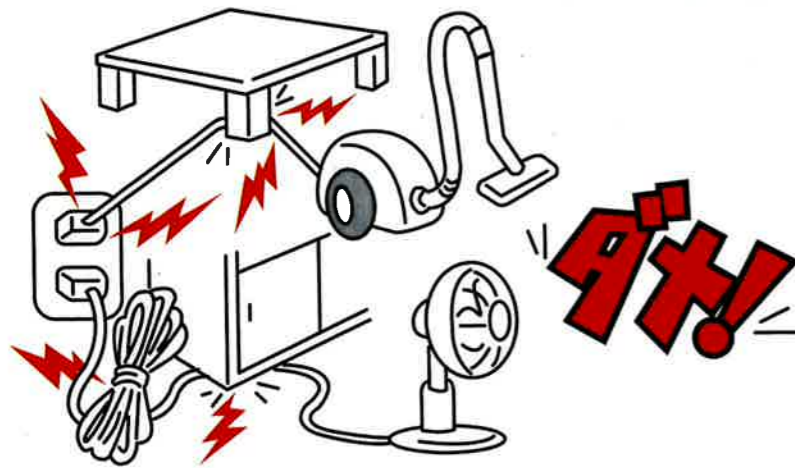
●ホコリや湿気は取り除く



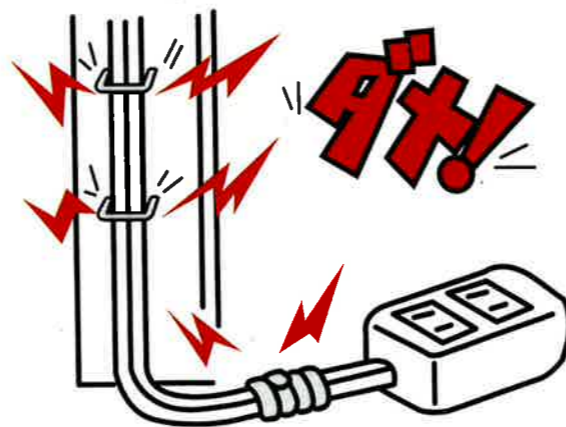
●傷んだものは使わない



●タコ足配線はしない



●物の下に敷いたり、束ねたり、引っ張ったりしない



●金具止めやコードとコードは直接接続しない

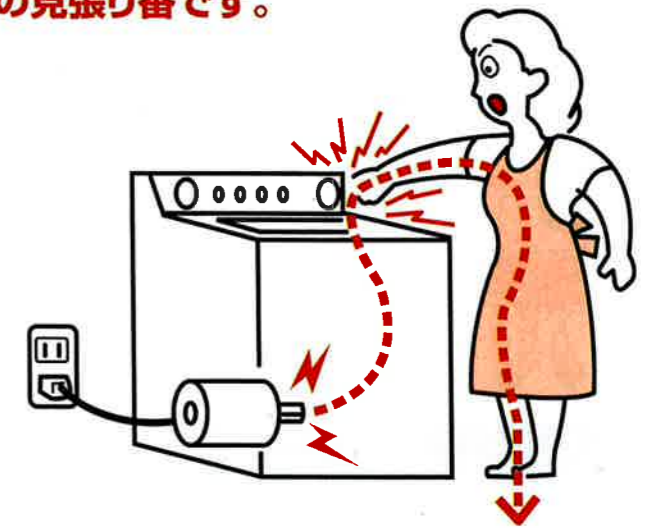
★漏電しゃ断器を取り付けましょう

漏電しゃ断器は電気の見張り番です。

漏電とは、電気が屋内配線や電気機器の電気回路以外の個所を流れることをいいます。

電気機器が古くなったり、絶縁性能が悪くなった箇所やビニールコードの被覆が傷んだ箇所などから漏電が起こります。漏電していることに気づかず使っていると感電や火災をまねきます。

この漏電を素早くキャッチして、自動的に電気を止める働きをするのが漏電しゃ断器です。



漏電しゃ断器を取り付けていないお宅は、漏電しゃ断器を取り付けましょう。

お宅の玄関や台所などにある分電盤（電気の本スイッチ）をごらんになって下さい。まだ、漏電しゃ断器が取り付けられていない場合には、ぜひ漏電しゃ断器を取り付け、安心して電気を使いましょう。

なお、漏電しゃ断器は過電流保護、単三中性線欠相保護機能付のものを取り付けされるようお願いいたします。取り付け工事は、電気工事店に依頼して下さい。

もしも電気が切れた場合は、次の手順で点検して下さい。

1. まず、ご近所を見て下さい。
2. ご近所の電気がついている場合、分電盤の漏電しゃ断器が「切」になっていないか調べて下さい。
3. 「切」になっている場合、次の手順で分電盤にあるスイッチを「入」「切」して下さい。
 - ① 配線用しゃ断器 (MCCB) をすべて「切」にする。
 - ② 漏電しゃ断器を「入」にする。
 - リセットボタンがある場合は、リセットボタンを押してから「入」にする。
 - 半切れの状態の場合は、一度、完全に「切」（スイッチを下側に下げる）にしてから「入」にする。
 - ③ MCCBを1つずつ「入」にしていく。
 - 「入」にした時、再び漏電しゃ断器が「切」になるMCCBがあれば、その回路は漏電か電気の使いすぎです。そのMCCBを「切」にしたまま、漏電しゃ断器を再度「入」にした後、残りのMCCBを「入」にして下さい。
 - MCCBを「切」にしたままの回路は、電気工事店で点検・修理してもらいましょう。
 - 雷が鳴っている時に漏電しゃ断器が働いた場合には、MCCBを全て「入」にできることがあります。これは雷による誤動作です。

